

トビイロウンカの防除対策

地域の発生情報を集め、ほ場をよく観察しましょう

○情報のチェック

都道府県の病害虫防除所が発表する**発生予察情報**などの病害虫の防除に関する情報を**こまめに確認**し、地域の**発生状況を把握**しましょう

都道府県の病害虫
防除所のHP一覧



<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/boujoshu.html>

○ほ場の見回り

株元のトビイロウンカの増殖を見逃さないように、**ほ場をこまめに見回り**ましょう

被害の発生が懸念される地域では、次の対策をしっかりと行いましょう

○育苗期の防除

トビイロウンカに**効果の高い薬剤**を選択して**箱施用剤**を施用しましょう

○本田での防除（基幹防除）

多くの地域でいもち病やカメムシ等の防除と併せて出穂期前後に行われていますが、**トビイロウンカに効果の高い薬剤**による**薬剤散布**を実施しましょう
また、本田防除後も発生状況を確認するため、ほ場の観察を行いましょう

○追加防除

情報のチェックやほ場の見回りにより、**トビイロウンカの発生状況に応じた臨機の防除**を実施しましょう

出穂期以降に防除が必要な場合には、トビイロウンカの生息する**株元まで薬剤が十分に届くように**、使用する薬剤、散布機を選択しましょう

なお、株元への薬剤散布ができない場合には**出穂前の粒剤散布**を行いましょう

※化学農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行いましょう

（参考）トビイロウンカ被害を回避するため、次のような取組があります

- ・ 抵抗性品種の使用、適切な施肥管理
- ・ トビイロウンカが定着しやすい時期を避けるよう、**移植時期を前後にずらす**
- ・ 密植や過繁茂とならないよう、**栽植密度（植付け本数及び植付け間隔）を調整**する
- ・ 水管理について、**数日間隔で湛水、落水を繰り返す**

※地域や栽培体系などにより、使用する薬剤など、効果の高い防除体系は異なります
都道府県が発表する情報に基づき、トビイロウンカに対して、より効果の高い防除を実施してください

トビイロウンカの被害を受けないために

トビイロウンカ（秋ウンカ）とは

- 主に6月～7月の間に大陸から風によって移動型(長翅型)成虫が日本列島に飛来する
- 飛来後のほ場では、定着型(短翅型)が現れ、急激に増殖する
- イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こす
- 気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向がある

移動型(長翅型)



- 体長 約4.5 mm
- 翅が長い
- 大陸から飛来

定着型(短翅型)



- 体長 約3 mm
- 翅が短い
- 増殖スピードが速い

被害が大きかった年（令和2年）のトビイロウンカの発生と被害

例年より早いペースで飛来し、飛来量も多く、広い範囲で確認されました
さらに、夏の気温も高くトビイロウンカの増殖に適した気象条件であったため、株あたりの頭数も多く推移し、結果として東海以西の広い地域で被害(坪枯れ)が生じました



当時の防除対策の課題

○適期に防除ができなかった

例年発生が少ない地域では、早期防除を呼びかける発生予察情報が発表されても、坪枯れを確認してから防除を行うなど、適期に防除が行われず、被害が拡大したケースがありました

○効果の高い育苗箱施用剤が選択されなかった

トビイロウンカを対象としていない薬剤、又は、効果が低い薬剤を選択していたため、十分な防除効果が得られなかったケースがありました

○薬剤散布方法等が適切でなかった

本田防除において、薬剤の種類や散布方法によっては、トビイロウンカが寄生する株元まで薬剤が届かず、十分な防除効果が得られなかったケースがありました